校長通信（教職員版）第２０号　２０１８．１．５

「高校生の論理的思考力をどう育てるか？」

続き

【１】児玉先生の実践・・・続き

さて、児玉先生の実践の続きです。次に児玉先生が紹介したのは、小論文指導の話です。まずは、次の小論文の課題を例にとって、児玉先生の小論文の指導を紹介しましょう。

小論文課題１
　高等学校が生徒の制服を定めることに、あなたは賛成か反対か。120 文字以内で考えを述べよ。

この課題に対する答案事例Ａが次の文です。

答案事例Ａ
　高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。人がどんな服を身につけるかは、本来各人の自由である。服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると問題が起こる。
99 文字

この答案事例Ａに対して、児玉先生は、論文構造分析表を用いて分析を行います。

①主題	高等学校が生徒の制服を定めること
②問い	高等学校が生徒の制服を定めることに私は賛成か反対か
③答え（中心命題）	高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。
④問い	
⑤答え（中心命題についての説明）	人がどんな服を身につけるかは、本来各人の自由である。服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると問題が起こる。

上の表が論文構造分析表です。①～③については、説明はいらないと思います。児玉先生によると、小論文というのは、

「問い＋答え」の型をとった文章

であるということです。そうすると、事例Ａの答案を見ると、④の問いが明確に意識されないまま、⑤の文章が書かれていると先生は指摘します。だから、⑤の文章を書く際に無意識に想定した問いを自分の頭の中で逆算し、その問いを明確に意識した形で、⑤の答えを書き直す必要があります。この場合、

why－because の「問い＋答え」を意識した推敲が求められる

わけです。そして、児玉先生は、

「自分で自分の文章を推敲できることが論理的思考力の育成につながる」

と指摘します。そして、答案Ａを推敲した答案が次の答案Ｂです。下線部が推敲した部分です。

答案事例Ｂ（答案事例Ａを推敲したもの）
　高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。なぜなら、第一に人がどんな服を身につけるかは、本来各人の自由だからであり、第二に服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると問題が起こるからである。120 文字

この推敲した答案事例を論文構造分析表に表すと次のようになります。

③答え	高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。	
④問い	なぜ反対であるのか。	
⑤答え	なぜなら、 第１に、人がどんな服を身につけるかは、本来各人の自由だからであり、	第２に、服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると、問題が起こるからである。

わずかな手直しですが、小論文らしくなったと思いませんか？さて、この課題を 200 字レベルの大学入試問題に発展させましょう。実は、この課題は、大学入試問題に出題されている問題なのです。児玉先生曰く、「大学は、制服問題に反対なのか賛成なのかをみているのではない。どれだけ、論理的に趣旨を展開しているのかをみる」ということです。当たり前といえば当たり前ですよね。

小論文課題２
　高等学校が生徒の制服を定めることに、あなたは賛成か反対か。200 字以内で考えを述べよ。
（出題例：大阪大学　群馬県立女子大学など）

この大学出題問題に答えた答案事例Ｃが次の事例です。

答案事例Ｃ
　高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると、問題が起こるからである。

この事例Ｃを論文構造分析表で表すと次のようになります。

③答え	高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。	
④問い	なぜ反対であるのか。	
⑤答え	なぜなら、服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると、問題が起こるからである。	人がどんな服を身につけるかは、本来各人の自由である。

ところが、この趣旨の根底のところでは、「人がどんな服を身につけるかは、本来各人の自由である。」という論旨が抜けているのです。それを推敲したのが、答案事例Ｄになります。

答案事例Ｄ（答案事例Ｃを推敲したもの）
　高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。なぜなら、服装の好み、暑さ寒さの感じ方、体型などが一人ひとり違う生徒に同じ服を着せることにすると、その服が自分の好みや体に合わなくて困る生徒が出てくるからである。生徒は、自分の好みや体に合わない制服を無理に着なければならないのだろうか。そんなことはない。人がどんな服装をするかは、本来各人の自由であるからだ。179 文字

　さて、この答案事例Ｄの論文構造分析表を示す前に、児玉先生の指摘を紹介したいと思います。児玉先生は、大学入試の到達目標として

論理的思考力を「問い＋答え」の連鎖の長さに見るのだ

と強調されていました。つまり、整理すると

１．小論文とは「問い＋答え」の型をとった文章である
２．特に、why－because の「問い＋答え」の型を意識して、自分で自分の原稿を推敲できるようにすることが大切である。

３．「問い＋答え」の連鎖が長い学生ほど、論理的思考力がある。

ということになります。このことを踏まえて、制服賛成派の答案事例Ｅを紹介します。

> 答案事例Ｅ（制服賛成）
> 　高等学校が生徒の制服を定めることに私は賛成だ。なぜなら、制服を定めておかないと、多くの生徒が、学校へ何を着て行くかで毎日頭を悩ますことになり、それは勉強の邪魔になるからである。人がどんな服装をするかは、本来は各人の自由であるが、正当な理由がある場合には、その自由を制限することが許される。高校が生徒の制服を定めることには、生徒の勉強の邪魔になるものを減らすという正当な理由がある。190 文字

ここで、答案Ｄと答案Ｅの論文構造分析表を比較しながら、その「問い＋答え」の連鎖の長さを比較してみましょう。

		答案Ｄ		答案Ｅ
③答え		高等学校が生徒の制服を定めることに私は反対だ。		高等学校が生徒の制服を定めることに私は賛成だ。
④問い		なぜ反対であるのか		なぜ賛成であるのか
⑤答え		なぜなら、制服を定めると、その制服が自分の好みや体型に合わなくて困る生徒が出てくるからである。		なぜなら、制服を定めておかないと、多くの生徒が、学校へ何を着て行くかで毎日に頭を悩ますことになり、それは勉強の邪魔になるからである。
	問い	自分に合わない制服を無理に着なければならないのか		
	答え	そんなことはない		そうだ
	問い	どうしてそんなことはないのか		だが、どんな服装をするかは、各人の自由ではないか。
	答え	どんな服装をするかは、本来各人の自由であるからだ。		どんな服装をするかは、「本来は」各人の自由である。
			問い	服装の自由を制限されることは許されるのか。
			答え	正当な理由がある場合には許される
			問い	高校が制服を定めることに正当な理由があるのか。
			答え	生徒の勉強に邪魔になるものを減らすという正当な理由がある。

以上を見比べると、答案事例Ｅの方が、「問い＋答え」の連鎖が長いことがわかると思います。この答案Ｅレベルが、児玉先生によると大学入試の到達目標であるということです。

　この指導にも種本があります。参考文献です。

★岡田寿彦『論文って、どんなもんだい』駿台文庫　1992 年

　→小論文を指導する父と小論文を学ぶ娘の対話の中で、「問い＋答え」の型を意識した推敲を行っている（ｂｙ児玉）

★山田ズーニー『伝わる・揺さぶる！文章を書く』ＰＨＰ新書　2001 年

　→進研ゼミの小論文講座を担当。問いの重要性に着目した実践書（ｂｙ児玉）

　この後、児玉先生は、刈谷剛彦氏の『知的複眼思考法』の紹介から、問いには２つの型があることを示されていましたが、これは割愛したいと思います。私の理解が不十分で十分に伝えられるとは思いません。できれば、先生方に、刈谷氏の本を読んでいただければありがたいと思います。2002 年、講談社から出版されています。

　さて、このあと、彦根東高校のＳＳＨの発表がありましたが、「さすが、彦根東！これで文武両道！（なぜなら甲子園に出場したトップの進学校）」という報告で、あまり〇〇高校には参考になりません。よく、〇〇高校のことを「文武両道」と称しますが、私は全然そんなことは思っていません。両方とも中途半端であると思っています。文武両道とは、一人一人の生徒の中に文と武がともに一定程度の成果をだし、成立している状態を指すと思っています。◆◆高校で学んだ次男がよく言っていました。「◆◆高のことをよく、文武両道っていうけど、八尾

高には文の子と武の子がいるんだよ」と。これを、文武両道とは言いません。

少し話がずれました。12月26日、彦根城のそばにある滋賀大学でセミナーを終えると、大阪ではなかなか感じることができない北風が吹き、駅に向かう構内のバス停で震えていました。大きなトラブルが３つも続いて、本当に心身ともに疲れていましたが、「湖北まで行ってよかった」と思います。とにかく、今、大学では、高大接続改革に向けて、全国でこのようなセミナーが行われています。このセミナーはどこで知ったかというと、京都大学の溝上教授が主催しているメーリングリストからです。皆さんも登録してみてください。大阪にいるとわからない全国の動きがわかります。これがＵＲＬです。http://kyoto-u.s-coop.net/tulip/index.html

私が今度参加しようと思っているのは、去年も参加した高槻中学・高校のＡＬ公開研究会です。その案内をお知らせします。以下ＭＬよりコピーです

2月17日(土)高槻中･高_アクティブラーニング公開研究会のご案内(高槻中学校･高等学校_前田秀樹)

本校では、松下佳代先生（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）をアドバイザーに、森朋子先生（関西大学教育推進部教授）を共同研究者に迎え、深い学びを意図したアクティブラーニングの推進に取り組んでおります。今年度は授業改善と並行して、全教科で「長期的ルーブリック」の作成に取り組んでおります。
昨年に引き続き２月に公開研究会を開催し、これまでの成果等を発表しようと計画しております。つきましては、諸先生方にご参会いただき、ご指導・ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

記

日時：２０１８年２月１７日(土) 13:30～ (受付開始 13:00～)
会場：高槻中学校・高等学校 〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町 2-5 TEL072-671-0001
定員：１５０名（各授業 25 名：事前申込制）＊第二部以降の参加はこの限りではありません
申込：１月１０日(水)１０：００よりＨＰにて (http://www.takatsuki.ed.jp/)
参加費：１０００円（当日、事務部窓口にてお支払い下さい）
内容：
■第一部　13:30～15:05
○公開授業（定員：各授業 25 名　※事前申込制）
・国語 中２「序詞を作ろう」(担当者：岡﨑匠)
・社会 中１「ヨーロッパの農業」(担当者：杉原)
・数学 高１「空間におけるベクトルの利用」(担当者：中村)
・理科(化学) 中２「ＧＷで電気分解を理解する」(担当者：田中敏)
・英語 中１「ジグソー法で『THE TALE OF PETER RABBIT』の世界にふれる」担当者：鈴木)
・体育 中２「みんなで頭と体を使うバドミントン」(担当者：西村)
○参観者と生徒・教員のフリーディスカッション
■第二部　15:20～～17:05
○主催者挨拶　　岩井一（校長）
○生徒による発表
○講演 ～本校での調査をもとに～
「深い理解を支えるクラスづくりの重要性 －生徒同士のラベル貼りを超えるには－」
森朋子 先生（関西大学 教育推進部／教育開発支援センター教授）
○基調講演
「深い学びを軸にした資質・能力の育成」
松下佳代 先生（京都大学 高等教育研究開発推進センター教授）
○ＡＬ推進３年目の取り組み　　前田秀樹（教頭／アクティブラーニング推進チームリーダー）
■第三部　17:15～18:15
○懇親会　［会場：本校食堂］

いかがですか？参加しませんか？

現在、12月31日　午後６時30分。今年もあとわずかです。